

VALUE POINTER

SCAT 研究奨励金を受けて



宮部 真衣 さん

Mai Miyabe

東京大学
知の構造化センター 特任研究員

〈モットー〉

自ら反みて縮くんば、千万人と雖も、吾往かん。

〈略歴〉

平成 20 年 3 月和歌山大学大学院システム工学研究科博士前期課程修了。平成 23 年 3 月同博士後期課程修了。同年 4 月東京大学知の構造化センター特任研究員。現在、自然言語処理技術の医学的応用、コミュニケーション支援に関する研究に従事。

今回は平成 19 年度 SCAT 研究奨励金採用の、宮部真衣さんをご紹介します。

宮部さんは、平成 23 年 3 月和歌山大学大学院システム工学研究科博士課程を修了、博士号を取得、現在は東京大学知の構造化センターで特任研究員として活躍されています。

Q. 在学時は何の研究をされていましたか

在学時は、多言語間コミュニケーション支援に関する研究を行っていました。世界規模でのインターネットの普及や、日本国内の外国人登録者の増加などによって、様々な場面で多言語間コミュニケーションの機会が増加しつつありますが、言語の習得などは容易ではなく、敷居が高いと考えられます。そ

で、言語の違いという大きな障壁を解消するために、機械翻訳などの既存の情報処理技術を用いて、母語のみを用いた多言語間コミュニケーションを支援するための研究を行いました。チャットなどのコミュニケーションや、医療受付でのコミュニケーションなど、様々な場面での支援について検討を行い、開発したシステムの医療現場への設置・運用なども行いました。

Q. 研究奨励金を受けて良かったことなどお聞かせください

研究奨励金を受けることで、親への負担をなくすことができました。また、アルバイトなどをする必要がなく、研究に専念することができました。このような研究環境を与えていただいたことで、博士後期課程での研究成果につながったと思っています。

Q. 現在の仕事を志望されたきっかけは

在学時の研究では、既存の情報処理技術を利用して人間を支援するという行っていました。多言語間コミュニケーションを対象としていたこともあり、特に自然言語処理技術を利用することが多く、研究を通して自然言語処理に興味を持つようになりました。また、医療現場を対象としたシステムの研究開発も行っていたため、医療現場の支援についても興味がありました。東京大学知の構造化センターには、自然言語処理などの情報技術の医学的応用を目指した研究グループがあり、医療分野と情報技術の融合に関する研究に携わりたいと思ひ、志望しました。

Q. 現在の仕事についてお聞かせください

自然言語処理を中心とした情報技術を、医学的に応用するための研究プロジェクトなどに関わらせていただいています。学生のころは、コミュニケーションを支援するシステムなど、既存の情報技術を使って、人間を支援するための研究を行っていました。現在は、その経験を生かして、自然言語処理の応用に関する研究を行っています。

Q. 現在の仕事の魅力は何ですか

情報技術に関する研究を行うことができるだけでなく、実際のフィールドへ研究成果を適用することの敷居が比較的低いことが魅力であると思っています。研究開発した技術は、実際に使ってもらうことが重要だと思いますが、医療現場への適用

については特に敷居が高いと思います。現在の仕事では、東大病院との共同研究という形で現場と密接にかかわることができ、恵まれた環境をいただけていると思っています。また、多数のプロジェクトに関わらせていただけており、非常にやりがいがあると感じています。

Q. 現在の仕事で苦勞されていることはありますか

私の着任したセンター内には自然言語処理を専門とした研究者が多いのですが、私は自然言語処理にあまり詳しくないため、話についていくことができないことがあります。少しずつ自分の知識として吸収していきたいと思っています。

Q. 今、興味もっていることや趣味などお聞かせください

まわりに自然言語処理研究者が多いので、自然言語処理により興味をもつようになりました。色々な利用方法がありそう

なので、面白い応用方法を考えたり、役に立つシステムを作ったりできたらいいなと思っています。

Q. 将来の目標についてお聞かせください

これまでにいくつかのプロジェクトなどにに関わり、研究開発した技術やシステムを実際に利用できる形にしていくことが重要だと感じました。将来は、様々な技術を応用したコミュニケーション支援技術やシステムを研究開発し、研究成果を積極的に社会へ還元していきたいと思っています。